
エネルギー一回収型廃棄物処理施設
建設・運営事業
審査講評

平成 29 年 6 月 9 日

天山地区共同環境組合エネルギー一回収型廃棄物処理施設
建設・運営に係る事業者選定審査委員会

目 次

1. 事業概要.....	1
(1) 事業名称.....	1
(2) 事業実施場所.....	1
(3) 公共施設等の概要.....	1
(4) 事業期間.....	1
(5) 事業方式.....	1
(6) 事業範囲.....	1
2. 審査方法等.....	3
(1) 入札の方法.....	3
(2) 落札者決定までの経過.....	3
(3) 審査委員会の設置.....	4
(4) 審査委員会の開催経過.....	4
(5) 落札者決定の手順.....	5
(6) 審査手順.....	6
3. 最優秀提案者選定結果.....	9
(1) 参加資格確認.....	9
(2) 提案書の基礎審査.....	9
(3) 提案書の定量化審査及び提案書に関するヒアリング.....	9
(4) 入札価格の定量化審査.....	13
(5) 総合評価値の算出.....	13
(6) 最優秀提案者の選定.....	13
4. 総評.....	14

1. 事業概要

(1) 事業名称

エネルギー回収型廃棄物処理施設建設・運営事業

(2) 事業実施場所

佐賀県多久市北多久町大字小侍4644番地29

(3) 公共施設等の概要

- ア 名称 エネルギー回収型廃棄物処理施設
- イ 建設予定地 所在地：佐賀県多久市北多久町大字小侍4644番地29
事業用地面積：約19,000㎡

ウ 施設の概要

施設の種類	概要	
エネルギー回収型 廃棄物処理施設	処理方式	全連続燃焼式（ストーカ方式）
	処理能力	57 t / 日（28.5 t / 24 h × 2 炉）
	処理対象物	可燃ごみ、可燃残渣

(4) 事業期間

- ア 事業期間 事業契約締結日の翌日から平成52年3月31日まで
- イ 設計・建設期間 事業契約締結日の翌日から平成32年3月31日まで
- ウ 運営期間 平成32年4月1日から平成52年3月31日まで

(5) 事業方式

エネルギー回収型廃棄物処理施設建設・運営事業（以下「本事業」という。）の事業方式は、エネルギー回収型廃棄物処理施設（以下「本施設」という。）の設計・建設及び運営・維持管理を一括して事業期間を通して発注するDBO（Design-Build-Operate）方式とする。なお、本施設の所有権は、天山地区共同環境組合（以下「組合」という。）が所有する。

本事業の実施にあたり、特別目的会社（SPC）は設立しない。

(6) 事業範囲

事業者が行う本事業の主な業務範囲は次のとおりである。

ア 設計・建設業務

- (ア) 建設事業者は、組合と締結する建設工事請負契約に基づき、本施設の設計・建設業務を行う。また、本事業を行うために必要な許認可の取得を行う。
- (イ) 建設については、土木及び外構工事、建築物及び建築設備工事、機械設備工事、電気計装設備工事、配管工事及びその他の関連工事を行う（工事範囲の詳細は、要求水準書による）。
- (ウ) 本施設の建設等に伴って発生する建設廃棄物等の処理・処分及びその他の関連業務、建築確認等の手続関連業務、本施設の試運転及び引渡性能試験を行う。

イ 運営・維持管理業務

- (ア) 運営事業者は、組合と締結する運營業務委託契約に基づき、一般廃棄物（可燃ごみ、多久

市リサイクル施設及び小城市リサイクル施設からの可燃残渣等)を受け入れ、要求水準書に規定する要求水準を満足する適正な処理を行う。なお、その際に、本施設の運營業務として運転管理業務、維持管理業務、環境保全業務、有効利用業務、情報管理業務、防災管理業務、その他関連業務等を行う。

- (イ) 運營業業者は、受入対象物の受入及び計量を行う。
- (ウ) 運營業業者は、本施設を運転することにより発生した焼却灰、飛灰処理物、処理不適物等を施設内にそれぞれ適正に貯留・保管した後、本施設において組合に引き渡す。なお、その際、運營業業者は、組合が指示する車両への積み込みまでの範囲を担うものとする。
- (エ) 建設事業者又は運營業業者は、周辺住民からの意見や苦情について、組合と連携して適切な対応を行う。
- (オ) 運營業業者は、本施設の見学希望者等について、組合と連携して適切な対応を行う。

2. 審査方法等

(1) 入札の方法

入札の方法は、地方自治法施行令（昭和 22 年政令第 16 号）第 167 条の 10 の 2 に規定する、総合評価一般競争入札方式により実施した。

(2) 落札者決定までの経過

落札者決定の経過は表 1 のとおりである。

表 1 落札者決定の経過

日 程	内 容
平成 28 年 11 月 8 日 (火)	入札公告 入札説明書等（入札説明書、要求水準書、落札者決定基準、様式集、基本契約書（案）、建設工事請負契約書（案）、運營業務委託契約書（案）及びその他これらに付属又は関連する書類）の公表
平成 28 年 11 月 8 日 (火) ～ 11 月 22 日 (火)	入札説明書等に関する質問受付（第 1 回）
平成 28 年 11 月 15 日 (火) ～ 11 月 16 日 (水)	現地見学会
平成 28 年 12 月 6 日 (火)	入札説明書等に関する質問回答（第 1 回）
平成 28 年 12 月 13 日 (火)	参加資格確認申請書類の受付
平成 28 年 12 月 20 日 (火)	参加資格確認結果の通知
平成 29 年 1 月 4 日 (水) ～ 1 月 10 日 (火)	対面的対話確認事項及び入札説明書等に関する質問（第 2 回）の受付
平成 29 年 1 月 30 日 (月) ～ 1 月 31 日 (火)	対面的対話の実施
平成 29 年 2 月 16 日 (木)	対面的対話議事録及び入札説明書等に関する質問回答（第 2 回）の公表
平成 29 年 3 月 30 日 (木)	入札提案書類の受付
平成 29 年 5 月 29 日 (月) ～ 5 月 30 日 (火)	提案書に関するヒアリング、審査
平成 29 年 5 月 30 日 (火)	開札
平成 29 年 5 月 30 日 (火)	最優秀提案者の選定
平成 29 年 6 月 9 日 (金)	落札者の決定
平成 29 年 6 月 9 日 (金)	落札者の公表

(3) 審査委員会の設置

提案審査は、公平性及び透明性を確保し専門的知見に基づく評価を行うことを目的に、学識経験者を含む、以下の7名の委員により構成される天山地区共同環境組合エネルギー回収型廃棄物処理施設建設・運営に係る事業者選定審査委員会（以下「審査委員会」という。）において行った。

[委員の構成]

委員長	西久保 裕彦	長崎大学大学院 水産・環境科学総合研究科 教授
副委員長	荒井 喜久雄	公益社団法人全国都市清掃会議 技術指導部長
委員	柳瀬 龍二	福岡大学 環境保全センター教授
委員	駄原 博美	多久市役所市民生活課長（平成29年3月31日まで）
委員	石井 淳二	多久市役所市民生活課長（平成29年4月1日から）
委員	荒川 清登	小城市役所環境課長（平成29年3月31日まで）
委員	松本 浩一郎	小城市役所環境課長（平成29年4月1日から）
委員	永松 隆志	多久市役所清掃センター所長
委員	片渕 誠	小城市廃棄物中継センター作業長

(4) 審査委員会の開催経過

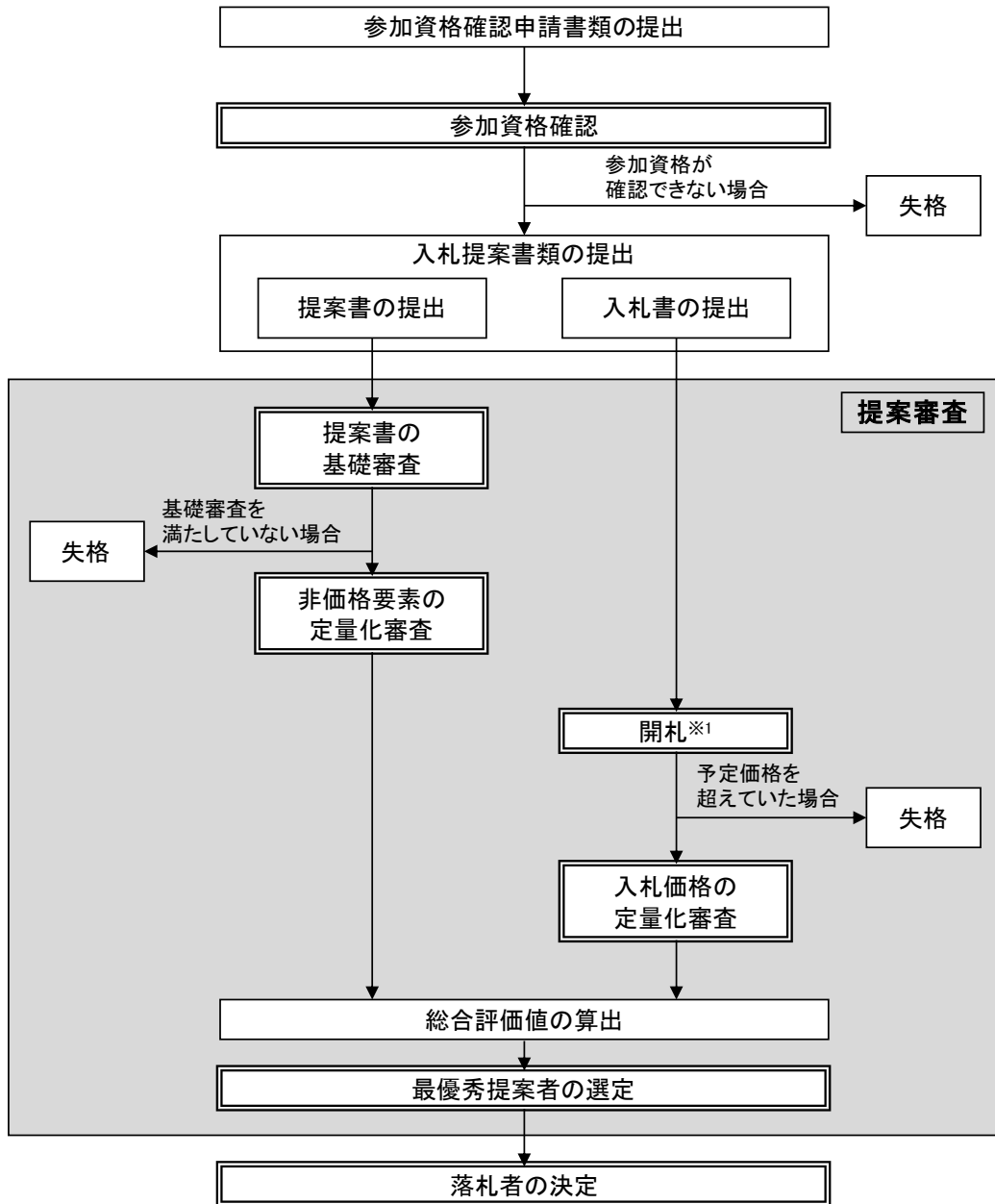
本事業における審査委員会の開催経過は、表2のとおりである。

表2 審査委員会の開催経過

日 付	内 容
平成28年8月4日（木）	第1回審査委員会 （事業概要、審査委員会の検討内容及びスケジュールの確認、実施方針（案）、要求水準書（案）に関する審議）
平成28年9月16日（金）	第2回審査委員会 （入札説明書（案）、落札者決定基準（案）に関する審議）
平成28年10月18日（火）	第3回審査委員会 （特定事業の選定、入札説明書等一式に関する審議）
平成29年1月30日（月） ～31日（火）	第4回審査委員会 （対面的対話（オブザーバー参加））
平成29年5月9日（火）	第5回審査委員会 （基礎審査結果の確認、提案内容・ヒアリング事項の確認）
平成29年5月29日（月） ～30日（火）	第6回審査委員会 （ヒアリング、非価格要素の定量化審査、入札価格の定量化審査、最優秀提案者の選定、審査講評の審議）

(5) 落札者決定の手順

落札者決定の手順については、図1のとおりである。



※1 提案書の基礎審査において失格となった者の提出した入札書は、開札しない。

※2 委員会の事務は図中網掛け部分

図1 落札者決定の手順

(6) 審査手順

ア 参加資格確認

参加資格確認は、参加資格確認申請書類の提出書類により、入札説明書に記載の入札参加者の備えるべき参加資格要件を満たしていることを事務局において確認した。

イ 提案審査

(ア) 提案書の基礎審査

審査委員会は、提案書（技術提案書、施設計画図書、添付資料）に記載された内容が、落札者決定基準に示す基礎審査項目を満たしていることを確認した。確認内容は、表 3 のとおりである。

表 3 確認内容

確認項目	内 容
入札書類の確認	・ 提出された提案書がすべて揃っていること。
提案書の基礎審査	・ 提案書の内容が要求水準書に示す要求水準を満たしていること。 ・ 入札説明書及び様式集に示す提案書の作成に関する条件について違反のないこと。 ・ 提案書全体について、同一事項に対する 2 通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。

(イ) 非価格要素の定量化審査

a. 審査項目及び配点

審査委員会は、表 4 に示す審査項目及び配点を設定し、提案書に記載された内容について、評価を行った。

なお、非価格要素に関する事項の配点は、60 点（全体 100 点）とした。

b. 非価格要素の得点化方法

提案を求めている審査項目においては、表 5 に示す 5 段階評価により評価、点数化を行い、各審査項目の得点を合計して、非価格評価点を算定した。

また、審査委員会では、最終的な評価を下す前に、提案書に関するヒアリングを実施し、提案内容の確認等を行ったうえで評価した。

表 4 審査項目及び配点

審査事項	審査項目			配点
	大項目	中項目	小項目	
非価格評価				60 点
1 設計・建設及び運營業務に関する事項				35 点
(1) 長期的に適切な処理を行う、効率的な施設				13 点
	ア 施設の安定稼働	① 処理システムの信頼性	4 点	
		② 搬入・搬出管理	3 点	
	イ 性能維持	① 基本性能の維持	3 点	
	ウ 施工計画	① 工程計画及び品質管理・環境配慮	3 点	
(2) 災害に強い、安全・安心な施設				12 点
	ア 施設の安全性	① 災害時の安全確保	3 点	
		② トラブルの未然防止及び事後対策	3 点	
	イ 環境保全	① 公害防止基準を満足するための取組み	3 点	
		② エネルギー回収、省エネルギーの取組み	3 点	
(3) 周辺環境に調和した、地域と循環型社会の形成に貢献する施設				10 点
	ア 景観	① デザイン及び景観	4 点	
	イ 配置動線計画	① 配置動線計画	4 点	
	ウ 環境学習計画	① 見学者対応及び環境学習計画	2 点	
2 事業計画に関する事項				25 点
(1) 長期的に適切な処理を行う、効率的な施設				15 点
	ア 組織体制	① 組織体制・人員配置計画	3 点	
	イ 事業収支計画	① 事業収支計画策定の考え方	2 点	
		② 事業の継続性に係る担保	5 点	
	ウ リスクの管理 及び対処方法	① リスクへの対処方法に関する考え方	3 点	
		② セルフモニタリングの実施内容と頻度	2 点	
(2) 災害に強い、安全・安心な施設				2 点
	ア 協力・支援	① 組合及び構成市への協力・支援	2 点	
(3) 周辺環境に調和した、地域と循環型社会の形成に貢献する施設				8 点
	ア 地域貢献	① 地域経済及び地元雇用への配慮	6 点	
		② 地域への社会貢献	2 点	
価格評価				40 点
3 入札価格に関する事項				40 点
1) 入札価格				40 点

表 5 非価格要素に関する得点化方法

評価	審査基準	得点化方法
A	特に優れている	配点×1.00
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	優れている	配点×0.50
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	優れているとは認められない	配点×0.00

※1 各審査項目の得点は、各委員が個別に行った評価の平均値とした。

※2 各審査項目の得点は、小数第3位を四捨五入した値とした。

(ウ) 入札価格の定量化審査

入札価格の定量化審査においては、入札書に記載された入札価格が入札書比較価格を超えていないことを確認したのち、入札価格について、表 6 に示す得点算定式により得点化した。なお、入札価格に関する事項の配点は 40 点（全体 100 点）とした。

表 6 入札価格の得点算定式

○最低入札価格 > 定量化限度額 の場合
$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{価格評価点} \end{array} \right) = 40 \text{ 点} \times \frac{\text{最低入札価格}}{\text{入札価格}}$
○最低入札価格 ≤ 定量化限度額 の場合
$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{価格評価点} \end{array} \right) = 40 \text{ 点} \times \frac{\text{定量化限度額}}{\text{入札価格}}$
入札価格が定量化限度額以下の入札参加者の価格評価点は 40 点満点
※ 定量化限度額：入札書比較価格×80%の価格（開札時に公表）

(エ) 総合評価値の算出

非価格要素の定量化審査、入札価格の定量化審査により算出した得点から、表 7 に示す算定式により、入札参加者の総合評価値を算出した。

表 7 総合評価値の算定式

$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{総合評価値} \\ \text{(100 点)} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{非価格評価点} \\ \text{(60 点)} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{価格評価点} \\ \text{(40 点)} \end{array} \right)$
※ ()内は各得点の配点を示す。

3. 最優秀提案者選定結果

(1) 参加資格確認

平成 28 年 11 月 8 日に入札公告を行い、平成 28 年 12 月 13 日に参加資格確認申請書類を受け付けたところ、以下の 4 グループから申請があった。

組合は参加資格確認を行い、当該グループの入札参加資格を確認し、平成 28 年 12 月 20 日に代表企業に対し、入札参加資格を有することを書面にて通知した。

表 8 参加資格確認申請書類提出グループ

グループ名	みかんグループ	いちごグループ
代表企業	株式会社川崎技研	株式会社プランテック
協力企業	鉄建建設株式会社九州支店	株式会社 J A 建設クリエイトさが
グループ名	びわグループ	ももグループ
代表企業	株式会社協和エクシオ	三機工業株式会社
協力企業		株式会社ミゾタ 三機化工建設株式会社 株式会社中野建設 株式会社中島工務店 モロドミ建設株式会社 岡本建設株式会社 株式会社シグマ 株式会社電興社

なお、審査委員会による審査にあたっては、審査の公平性を期すため、提案書等すべての書類において参加グループの企業名は伏せ、表 8 のグループ名で識別して評価を行った。

(2) 提案書の基礎審査

平成 29 年 3 月 30 日に入札参加資格を有するももグループ、いちごグループ、びわグループの 3 グループより提案書が提出された。なお、みかんグループからは、平成 29 年 3 月 30 日に入札辞退届が提出された。

提出された提案書について、基礎審査項目に沿って基礎審査を行った。3 グループの提案書は、いずれも組合が要求する水準を満足していること等が確認されたため、基礎審査に合格しているものと認められた。

(3) 提案書の定量化審査及び提案書に関するヒアリング

平成 29 年 5 月 29 日及び 30 日に、審査委員会において提案書の定量化審査を行った。審査に際しては、提案書に関する入札参加者による説明（プレゼンテーション）及び委員による提案内容に対する質疑（ヒアリング）を実施し審査を行った。

定量化審査の審査項目について、適確な提案がなされているかの審査を行い、提案書の定量

化審査に関する得点化を行った。なお、評価は組合の要求する水準を満たしたうえで、より優れた提案に対して評価を行う加点方式である。

審査結果は表 9、非価格要素の各審査項目についての講評は表 10 のとおりである。

表 9 非価格要素の定量化審査結果（非価格評価点）

審査事項	審査項目		配点	ももグループ	いちごグループ	びわグループ		
	大項目	中項目					小項目	
1	設計・建設及び運營業務に関する事項		35	22.48	19.82	17.29		
	(1) 長期的に適切な処理を行う、効率的な施設		13	8.56	7.39	7.00		
		ア	施設の安定稼働	7	5.14	3.96	3.79	
			① 処理システムの信頼性	4	3.00	2.14	2.29	
			② 搬入・搬出管理	3	2.14	1.82	1.50	
		イ	性能維持	3	1.71	1.82	1.50	
			① 基本性能の維持	3	1.71	1.82	1.50	
		ウ	施工計画	3	1.71	1.61	1.71	
			① 工程計画及び品質管理・環境配慮	3	1.71	1.61	1.71	
		(2) 災害に強い、安全・安心な施設		12	7.50	6.43	6.22	
		ア	施設の安全性	6	3.53	3.11	3.11	
			① 災害時の安全確保	3	1.71	1.50	1.50	
			② トラブルの未然防止及び事後対策	3	1.82	1.61	1.61	
		イ	環境保全	6	3.97	3.32	3.11	
			① 公害防止基準を満足するための取組み	3	1.93	1.61	1.50	
			② エネルギー回収、省エネルギーの取組み	3	2.04	1.71	1.61	
		(3) 周辺環境に調和した、地域と循環型社会の形成に貢献する施設		10	6.42	6.00	4.07	
		ア	景観	4	2.71	2.29	1.29	
			① デザイン及び景観	4	2.71	2.29	1.29	
		イ	配置動線計画	4	2.57	2.57	1.71	
			① 配置動線計画	4	2.57	2.57	1.71	
		ウ	環境学習計画	2	1.14	1.14	1.07	
			① 見学者対応及び環境学習計画	2	1.14	1.14	1.07	
	2	事業計画に関する事項		25	15.56	12.93	13.00	
		(1) 長期的に適切な処理を行う、効率的な施設		15	8.85	7.72	7.86	
			ア	組織体制	3	1.82	1.61	1.61
				① 組織体制・人員配置計画	3	1.82	1.61	1.61
		イ	事業収支計画	7	4.35	3.82	3.86	
			① 事業収支計画策定の考え方	2	1.14	1.14	1.00	
			② 事業の継続性に係る担保	5	3.21	2.68	2.86	
		ウ	リスクの管理及び対処方法	5	2.68	2.29	2.39	
			① リスクへの対処方法に関する考え方	3	1.61	1.29	1.39	
			② セルフモニタリングの実施内容と頻度	2	1.07	1.00	1.00	
		(2) 災害に強い、安全・安心な施設		2	1.21	1.00	1.00	
		ア	協力・支援	2	1.21	1.00	1.00	
			① 組合及び構成市への協力・支援	2	1.21	1.00	1.00	
		(3) 周辺環境に調和した、地域と循環型社会の形成に貢献する施設		8	5.50	4.21	4.14	
		ア	地域貢献	8	5.50	4.21	4.14	
			① 地域経済及び地元雇用への配慮	6	4.29	3.21	3.21	
			② 地域への社会貢献	2	1.21	1.00	0.93	
非価格評価点			60	38.04	32.75	30.29		

表 10 非価格要素に関する事項の講評

項 目		講 評
1 設計・建設及び運営業務に関する事項		
(1) 長期的に適切な処理を行う、効率的な施設		
ア 施設の安定稼働	①処理システムの信頼性	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、処理システムの信頼性向上に関して、実績に基づく具体的な取組みが提案されている点を評価した。 ももグループについては、システムの安定性に加え、耐久性や長寿命化に視点をおいたきめ細やかな提案があり、またごみ量変動への対応において効果が期待できる工夫がなされている点について特に評価した。
	②搬入・搬出管理	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、搬入物に対する適切なチェック方法・体制が提案されている点を評価した。 ももグループについては、処理不適物に対し、柔軟な対応が提案されている点を評価した。
イ 性能維持	①基本性能の維持	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、これまでの実績と経験に基づき、長期稼働を見据えた効率的な維持管理計画である点を評価した。
ウ 施工計画	①工程計画及び品質管理・環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、建設地の条件を踏まえた適切な工程計画と工期遵守のための具体的な方策が提案されており、また、適切な品質管理・安全管理及び環境管理の方法が提案されている点を評価した。 びわグループについては、工程に遅延リスクを見込んだ柔軟性の高い提案がなされている点について評価した。
(2) 災害に強い、安全・安心な施設		
ア 施設の安全性	①災害時の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、災害発生時における二次災害の防止策、災害に強い構造計画において具体的かつ適切な提案である点を評価した。
	②トラブルの未然防止及び事後対策	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、各段階のトラブル未然防止策及び事後対策、ヒューマンエラーの未然防止対策において具体的かつ経験に基づいた提案であることを評価した。
イ 環境保全	①公害防止基準を満足するための取組み	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、公害防止基準を満足するための具体的な方策、運転監視方法を評価した。 ももグループについては、環境負荷の低減を考慮した運転基準値・要監視基準値を提案されている点を評価した。
	②エネルギー回収、省エネルギーの取組み	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、エネルギー回収率の向上、省エネルギー対策、二酸化炭素排出量の最小化に努めている点を評価した。 ももグループについては、使用電力の削減と効率的な運転計画に基づく燃料使用量の削減により、二酸化炭素排出量が少ない点を評価した。
(3) 周辺環境に調和した、地域と循環型社会の形成に貢献する施設		
ア 景観	①デザイン及び景観	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、周辺環境との調和、隣接地からの見え方に配慮したデザイン及び景観計画である点を評価した。 ももグループについては、地域の特徴に配慮した工夫が随所にみられ、その効果が期待できる点を特に評価した。

項 目		講 評
イ 配置動線計画	①配置動線計画	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、敷地条件を踏まえた妥当性のある配置計画であり、安全性と利便性に配慮した配置動線計画である点を評価した。 ももグループについては、地盤条件により配慮した配置計画である点、動線計画における繁忙期への配慮を評価した。 いちごグループについては、安全性に配慮した、わかりやすい動線計画である点を評価した。
ウ 環境学習計画	①見学者対応及び環境学習計画	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、見学ルート、見学窓の配置、環境学習プログラム等について、わかりやすさや見学者構成に配慮した工夫がなされている点を評価した。
2 事業計画に関する事項		
(1) 長期的に適切な処理を行う、効率的な施設		
ア 組織体制	①組織体制・人員配置計画	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、機能的な運転管理体制であり、明確な役割分担のなされた人員配置計画である点を評価した。
イ 事業収支計画	①事業収支計画策定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、安定した事業収支計画である点を評価した。
	②事業の継続性に係る担保	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、健全かつ安定した財務体質の代表企業を有し、万一の場合にも事業を継続させるための方策が提案されている点を評価した。 ももグループについては、協力企業も含めた複数の対策が提案されている点を評価した。
ウ リスクの管理及び対処方法	①リスクへの対処方法に関する考え方	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、適切なリスク管理方針及び管理体制を計画している点を評価した。
	②セルフモニタリングの実施内容と頻度	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、必要十分なセルフモニタリング計画である点を評価した。
(2) 災害に強い、安全・安心な施設		
ア 協力・支援	①組合及び構成市への協力・支援	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、平常時・災害時における組合・構成市との積極的な連携、災害時の早期復旧に向けた具体的な提案がなされている点を評価した。
(3) 周辺環境に調和した、地域と循環型社会の形成に貢献する施設		
ア 地域貢献	①地域経済及び地元雇用への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、設計・建設期間、運営期間を通じて、地元企業の積極活用、地元雇用について、具体的な計画である点を評価した。 ももグループについては、地元企業への工事発注額が最大であり、事業期間を通じて地元企業の活用規模が大きく、効果が期待できる点を特に評価した。
	②地域への社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、周辺住民との信頼関係を確立するために、周辺住民との交流・連携を深める提案がなされている点を評価した。

(4) 入札価格の定量化審査

提案書を提出した入札参加者の立会いのもとで平成 29 年 5 月 30 日に開札を行い、予定価格の範囲内であることを確認した。

審査委員会は、開札結果の報告を受け、入札価格の定量化審査に関する得点化を行った。得点化の結果は、表 11 のとおりである。

表 11 入札価格の定量化審査結果（価格評価点）

グループ名	代表企業名	配点	入札価格（税抜）	価格評価点
もも	三機工業株式会社	40点	9,340,000,000 円	37.69 点
いちご	株式会社プランテック		8,799,672,000 円	40.00 点
びわ	株式会社協和エクシオ		9,860,000,000 円	35.70 点

※定量化限度額：8,793,672,000 円（入札書比較価格の 80%）

(5) 総合評価値の算出

「非価格評価点」、「価格評価点」を加算して、表 12 のとおり総合評価値を算出した。

表 12 総合評価値の算出結果

入札参加者		非価格 評価点 (A)	価格 評価点 (B)	入札価格（税抜）	対入札書 比較価格	総合 評価値 (A)+(B)
グループ名	代表企業名					
もも	三機工業株式会社	38.04 点	37.69 点	9,340,000,000 円	85.0%	75.73 点
いちご	株式会社プランテック	32.75 点	40.00 点	8,799,672,000 円	80.1%	72.75 点
びわ	株式会社協和エクシオ	30.29 点	35.70 点	9,860,000,000 円	89.7%	65.99 点

(6) 最優秀提案者の選定

審査委員会は、上記の結果に基づき「ももグループ」（代表企業：三機工業株式会社）を最優秀提案者として選定した。

4. 総評

本事業は、天山地区共同環境組合（多久市、小城市）のエネルギー回収型廃棄物処理施設の整備及び20年間の運営を行うものである。本事業では、組合圏域内の可燃ごみ処理を担う施設として、環境と安全に配慮し、長期的な視点からコスト削減と安定的運営を図り、より質の高い事業運営を目指すことを目的としている。

本事業では、施設の設計・建設及び運営・維持管理を一括して事業期間を通して発注するDBO(Design-Build-Operate)方式を採用しており、民間の創意工夫による提案を取り入れた良質な設計・建設業務と、安全で効率的かつ効果的な運営業務を実施するものである。

このような背景を踏まえ、総合評価一般競争入札により組合が落札者を選定するにあたり、審査委員会では、透明性、公平性に最大限配慮した評価基準及び方法等を定め、事業者選定のための審査を実施した。

今回、入札に参加した3グループの提案は、いずれも本事業の目的を的確に捉え、各業務の内容について組合が要求する水準を上回る提案内容であった。3グループにおいては、提案内容が多岐にわたることから、提案書の作成において多大な労力及び費用負担があったことが想定される。そうしたなかで提案をまとめた応募者の熱意及び姿勢に敬意を表するとともに、深く感謝する。

審査においては、提案書及び入札価格に対して厳正なる審査を行った結果、三機工業株式会社を代表企業とするももグループを最優秀提案者として選定するに至った。

ももグループの提案に対しては、組合の期待する創意工夫と事業の効率性を両立していると評価されたものであり、特に「処理システムの信頼性」、「デザイン及び景観」、「地域経済及び地元雇用への配慮」が高く評価された。一方で、審査委員会の審議において、以下に示す要望事項が挙げられた。

- ① 建設工期を遵守し、平成32年4月の供用開始を確実に達成させること。
- ② 提案内容を誠実に履行し、安定したごみ処理を実現させ、組合圏域内の公衆衛生の確保、地域環境の保全に努めること。
- ③ 各公害防止基準を遵守するとともに、二酸化炭素排出量のより一層の削減に努めること。
- ④ 安全な施設運営に努め、地域住民に受容され、信頼される施設の実現に努めること。
- ⑤ 地元雇用や地元発注のより一層の拡大に努め、地域経済の発展に寄与すること。
- ⑥ 多久市において別途整備するマテリアルリサイクル推進施設に関し、多久市及び工事業者と調整・連携を十分に図ること。

ももグループには、上記の要望事項等について、入札及び契約の公平性を妨げない範囲において本事業をより良いものとするために組合と十分な協議を行い、真摯な対応に努めてもらいたい。さらに、ももグループには、事業期間を通じて誠意をもって各業務を行い、組合と良きパートナーとなり、地域との信頼関係を築きながら、本事業を計画的かつ円滑に推進することを期待する。

平成29年6月

天山地区共同環境組合エネルギー回収型廃棄物処理施設
建設・運営に係る事業者選定審査委員会

委員長 西久保 裕彦